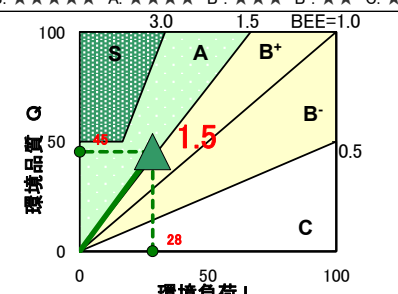
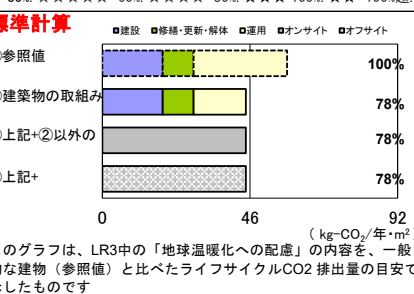
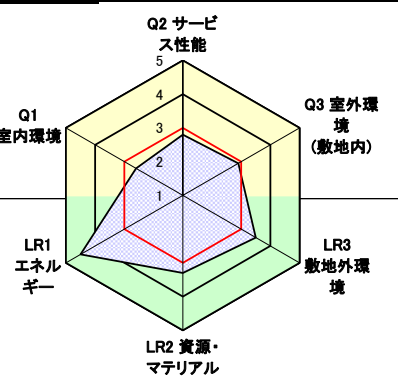
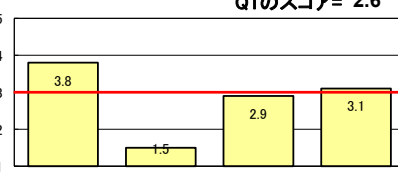
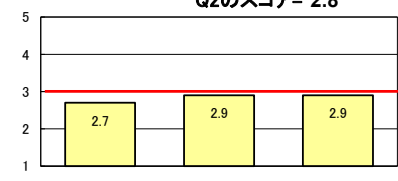
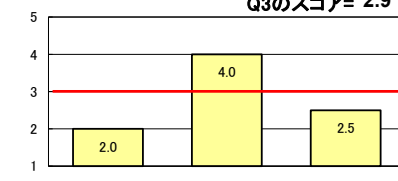
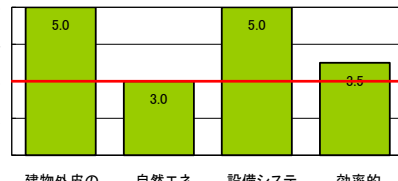
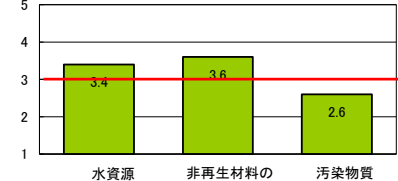
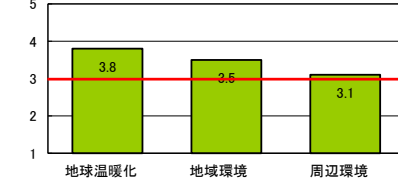




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	横浜市幸浦NKビル開発新築工事	階数	地上4F
建設地	横浜市金沢区幸浦二丁目12番3	構造	S造
用途地域	工業地域、指定なし	平均居住人員	10 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2023年11月24日
敷地面積	7,643 m ²	作成者	吉田 隆
建築面積	3,915 m ²	確認日	2023年11月25日
延床面積	15,078 m ²	確認者	吉田 隆



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.5 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 	 標準計算 ①参照値 100% ②建築物の取組み 78% ③上記+②以外の 78% ④上記+ 78% このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア = 2.8		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.6 	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.8 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.9 
LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.8		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.5 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.3 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.5 

3 設計上の配慮事項		
総合 工業地域として、町並みと調和した建物とする。建物をセットバックさせメイン道路からの圧迫感を低減している。周辺に緑地帯を設け環境配慮した。		
Q1 室内環境 冷凍冷蔵庫の入出庫のための荷受け事務所があり、事務室、ドライバーの休憩室、乾式トイレを用意した。ブラインドを設置し、日射を遮るようとした。	Q2 サービス性能 24時間対応のトラック入出庫とし、前面道路の渋滞緩和を計画した。	その他 切土、盛土が極力少なくなるよう計画し、残土を減らし、埋土は無くした。又、土壌汚染対策として、地中の汚染土(ヒ素)に影響を及ぼさないように深さを計画した。
LR1 エネルギー 屋根、床に断熱材を施した。サッシは複層ガラス(Low-E)を採用した。照明には消費電力の小さいLEDを採用した。屋根はダブル折版屋根(断熱材入り)とした。照明はLED、給水は節水器具を採用した。	LR2 資源・マテリアル 内装にはF☆☆☆☆の建材を積極的に採用する。また、内装壁、天井は軽鉄 下地+PBとし、躯体と分離可能にする。	Q3 室外環境(敷地内) 歩道側に植栽(高木)を配置し、周辺景観に合わせた植栽計画とした。
		LR3 敷地外環境 工業地域らしく、建物の外壁色は無彩色とした。ベースカラーは、冷凍冷蔵庫らしいホワイトとして横浜臨港に相応しいものとした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 横浜市幸浦NKビル開発新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

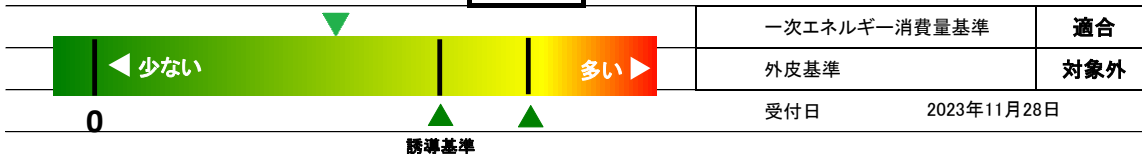
重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

5

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 44 %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

屋根をダブル折版とし、サッシは複層ガラスを採用した。

照明は消費電力の少ないLEDを使用。給水器具を節水型とし、水資源利用の削減に努めた。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【快適・働きやすさ】

3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

アルミサッシの遮音性能をT-2とした。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

冷凍冷蔵庫への荷受け対応として、事務室、休憩室、乾式トイレを設けた。

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

歩道側に植栽(高木)を配置し、周辺景観に合わせた植栽計画とした。

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防災】

3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

切土、盛土が極力少なくなるよう計画し、残土を減らし、埋土は無くした。

土壌汚染対策として、地中の汚染土(ヒ素)に影響を及ぼさないように深さを計画した。

内装壁、天井は軽鉄下地+PBとし、躯体と分離可能する構造とした。

ゆとりを持った床荷重の設定をしている。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

3

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

建物をセットバックさせメイン道路からの圧迫感を低減している。周辺に緑地帯を設け環境配慮した。

工業地域らしく、建物の外壁色は無彩色とした。

24時間対応のトラック入出庫とし、前面道路の渋滞緩和を計画した。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入

その他;



CASBEE横浜2022年版v.1.2

横浜市幸浦NKビル開発新築工事

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.2

スコアシート 実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質					-		-	2.8
Q1 室内環境					0.30		-	2.6
1 音環境				3.8	0.15	-	-	3.8
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	-
1.2 遮音				5.0	0.40	-	-	-
1 開口部遮音性能				5.0	1.00	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-	-
2 温熱環境				1.5	0.35	-	-	1.5
2.1 室温制御				2.0	0.50	-	-	-
1 室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		3.0	0.38	3.0	-	-
2 外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能		2.0	0.25	-	-	-
3 ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		1.0	0.38	-	-	-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		1.0	0.20	-	-	-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		1.0	0.30	-	-	-
3 光・視環境				2.9	0.25	-	-	2.9
3.1 屋光利用				2.4	0.30	-	-	-
1 屋光率	快適・働きやすさ	⑩光環境		2.0	0.60	-	-	-
2 方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境		-	-	-	-	-
3 屋光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境		3.0	0.40	-	-	-
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	-
1 屋光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境		3.0	1.00	-	-	-
3.3 照度	快適・働きやすさ	⑩光環境		4.0	0.15	-	-	-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ	⑩光環境		3.0	0.25	3.0	-	-
4 空気質環境				3.1	0.25	-	-	3.1
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		4.0	1.00	-	-	-
4.2 換気				2.3	0.30	-	-	-
1 換気量	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		3.0	0.33	-	-	-
2 自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		3.0	0.33	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		1.0	0.33	3.0	-	-
4.3 運用管理				2.0	0.20	-	-	-
1 CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		1.0	0.50	-	-	-
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		3.0	0.50	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.8
1 機能性				2.7	0.40	-	-	2.7
1.1 機能性・使いやすさ				2.0	0.40	-	-	-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	0.33	-	-	-
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性		2.0	0.33	-	-	-
3 バリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性		1.0	0.33	-	-	-
1.2 心理性・快適性				3.3	0.30	-	-	-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性		4.0	0.33	-	-	-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	0.33	-	-	-
3 内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	0.33	1.0	-	-
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性	防 災	⑬耐震・免震		3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制振性能	防 災	⑬耐震・免震		3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数	防 災	⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防 災	⑭部品・部材の耐用年数向上		2.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防 災	⑭部品・部材の耐用年数向上		5.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防 災	⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防 災	⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	防 災	⑭部品・部材の耐用年数向上		2.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	防 災	⑮信頼性		3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備	防 災	⑮信頼性		3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	防 災	⑮信頼性		3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	防 災	⑮信頼性		3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備	防 災	⑮信頼性		2.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				2.9	0.30	-	-	2.9
3.1 空間のゆとり				3.4	0.30	-	-	-
1 階高のゆとり				5.0	0.60	-	-	-
2 空間の形状・自由さ				1.0	0.40	-	-	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	-
3.3 設備の更新性				2.6	0.40	-	-	-
1 空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	-
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	-
3 電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	-
4 通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	-
5 設備機器の更新性				1.0	0.20	-	-	-

Confidential



CASBEE横浜2022年版v.1.2

横浜市幸浦NKビル開発新築工事

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.2

スコアシート			実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目			<非住宅> <集合住宅>		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.40	-	-	-	2.9	
1 生物環境の保全と創出			地域・まちづくり		⑩生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			地域・まちづくり		⑨まちなみ・景観への配慮	4.0	0.40	-	-	4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮						2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			地域・まちづくり		⑩地域性への配慮	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			快適・働きやすさ		⑪敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.8	
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制			省エネルギー性能		①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用			省エネルギー性能		②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			省エネルギー性能		③設備システムの高効率化	5.0	0.50	-	-	5.0	
4 効率的運用						3.5	0.20	-	-	3.5	
集合住宅以外の評価						3.5	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			省エネルギー性能		④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			省エネルギー性能		④効率的運用	4.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価						-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			省エネルギー性能		④効率的運用	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			省エネルギー性能		④効率的運用	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.3	
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	-	3.4	
1.1 節水					4.0	0.40	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	-	-	
1 1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.70	-	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.6	0.60	-	-	-	3.6	
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.10	-	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.20	-	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					5.0	0.20	-	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.10	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					5.0	0.20	-	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.6	0.20	-	-	-	2.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					2.5	0.70	-	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50	-	-	-	-	
3 冷媒					2.0	0.50	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.5	
1 地球温暖化への配慮					3.8	0.33	-	-	-	3.8	
2 地域環境への配慮					3.5	0.33	-	-	-	3.5	
2.1 大気汚染防止					5.0	0.25	-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.2	0.25	-	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減					3.0	0.25	-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	-	-	
3 交通負荷抑制					5.0	0.25	-	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25	-	-	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33	-	-	-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	-	-	
1 騒音					3.0	0.50	-	-	-	-	
2 振動					3.0	0.50	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	-	-	
2 砂塵の抑制					1.0	-	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	-	-	
3.3 光害の抑制					3.7	0.20	-	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					4.0	0.70	-	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	-	-	
上記以外の重点項目						-	-	-	-	-	
<事務用途>						-	-	-	-	-	
知的生産性向上への取組			快適・働きやすさ		⑬知的生産性向上への取組	3.0	-	-	-	-	
<住宅用途>						-	-	-	-	-	
健康と安心						-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質の対策			健康・安心		⑥健康対策	-	-	-	-	-	
2 適切な換気計画			健康・安心		⑥健康対策	-	-	-	-	-	
3 結露・カビ対策			健康・安心		⑥健康対策	-	-	-	-	-	
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)			健康・安心		⑦防犯対策	-	-	-	-	-	